

三条別院のご案内

真宗大谷派三条別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三条別院に想う

▲十月には四年ぶりに佐渡組へ報恩講職員巡回に伺ったということもあり、院議会議員の松本昭則氏に執筆していただきました。

三条別院には二十年程、お世話になっております。三条真宗学院入学からのご縁です。三年間、百回位、一年は東京から、後一年は佐渡から通い、毎回同朋会館に泊まり、おあさじお参りさせて頂きました。百回泊って、百回飲んで。中越地震の時、開いている飲み屋を求め、余震でガタガタする中、痛飲しており、被災された皆様には大変申し訳なく思います。新幹線不通で帰京不可、でもなんとか帰島はできました。同朋会館第一会議室には地震の際、揺れによってこぼれた輪灯の油の痕が、今も床の絨毯に残っています。

当時、本寺小路でよく通ったバーのマスターと、朝の六時半まで飲み、七時のおあさじと一緒に参りした時のこと。別院の職員さんに、酒臭いといわれまして、申し訳なかったです。

そのマスターとはその後、何度も別院でお会いする機会があり、又、店に顔を出して！ はい必ず。それが最後でした。急に亡くなられ、もうお会いできません。

今も別院にお参りすると、マスターの姿を探し

てしまう、私がおります。南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

出来るだけ、飲まないでお参りしましょう。

さて、十一月五日から八日まで三条別院において、お取り越し報恩講が勤まります。最初で最後と思ひ、お参り・出仕しませんか？ 互いに声を掛け合って 親鸞聖人にお会いしましょう。

また、十一月二十一日から十一月二十八日、本山で御正忌報恩講が勤まります。お参り・出仕しましょう

どちらも、満堂で勤まりますように その中のひとりはおあなたであり、私です。彌陀の仰せ 私の名前を称えなさい はいッ南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛…無了しまいなし

松本 昭則氏 (佐渡組本龍寺住職)



【教区声明講習会に欠かさず出席される松本氏 (前列正面)】

○次回の「三条別院に想う」は、

小嶋 勇司氏 (第十組光圓寺)

よりご執筆いただきます。

▲次回は推進員会長としておみがき奉仕団(写真、次頁)からお取り越し報恩講の加勢まで、お手伝いいただいている小嶋氏より、執筆していただきます。

おみがき奉仕団が無事に終了

お取り越し報恩講の準備が始まっています。今年も、仏具のおみがきを三回に分けて行い、延べ人数八十名程にご参加いただきました。

仏具の裏側を見ると、寄進人と年代が記してあるものもあります。古い仏具ですと、例えば中尊前の輪灯は明治四十一年と、実に百年以上前のものになります。この時代、明治四十一年が三条大火で焼失した三条別院の落慶入仏式ですので、それにあわせて寄進された仏具を、現在でも毎年おみがきをして使用し続けているということなのです。別院を支え続けてきた人々の歴史を感じながら、無事におみがきが終了しました。



【報恩講の仏具は大きいものばかり。仏器をみがく進連絡協議会会長小嶋勇司氏】



高田別院報恩講参拝・職員報恩講巡回報告

十月五日から八日まで高田別院報恩講が勤められ、だんだんに交流をはじめていきたいということで、本年は三条別院報恩講実行委員会教化部の有志及び職員で参拝を行いました。

また、二条別院お取り越し報恩講の参拝・出仕・御懇志の御願いで、本年は中越十一組、第十四組・佐渡組の御寺院を職員が巡回させていただきました。本年は報恩講実行委員会にて、お取り越し報恩講の志納寺院数が増えないことが議題となりましたが、それについても、各寺院で、予算を立て方について等、いろいろとご意見もいただきました。今後、実行委員会にて、その内容を報告して検討して参りたいと思います。

三条別院お取り越し報恩講にも県内外から幅広く、ご参詣いただけることを願っております。



【教化部会からは安原主査はじめ3人で参拝。「順番」さんたちが迎えてくれる。職員巡回は4年ぶりに佐渡組も。】

定例法話会のご案内

毎月十三日の闡如上人のご命日にあわせて定例法話会を開催しております。

◆十月から十二月の講師

中山善雄氏

(第十四組寶國寺、元教学研究研究所研究員)



◆日時 十月十三日(金) (済)

十一月十三日(月)

十二月十三日(水)

いずれも午後二時三十分～午後二時三十分

◆会場 三条別院旧御堂

◆講題 「女人成仏と変成男子」

▲「たとい我、仏を得んに、十方無量不可思議の諸仏世界に、それ女人あつて、我が名字を聞きて、歡喜信樂し、菩提心を發して、女身を厭惡せん。壽終わりての後、また女像とならば、正覺を取らじ。」『仏說無量壽經』卷上、『真宗聖典』二一頁。阿弥陀如来は仏と成るために四十八の願いを誓われた。これを本願と呼びます。そのうち三十五番目の願いが右

にある文章です。この願文は「女性差別」ではないのかと言われ、長年問題視されてきました。なぜ三十五願が誓われなければならなかったのか。そのころは何か。教学研究研究所研究員であった中山善雄氏に、全三回でお話いただきます。

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日時 十一月二十八日(火) 午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日 日中法要)

正信偈 真四句目下

念仏讚 洵五

和讚 回口 次第六首

回 向 願以此功德

◎今月の法話講師

田村大輔氏(第二十組専念寺)

(一帖目第一通 「門徒弟子」)

▲『御文』一帖目をテーマにしております。

▲十時半から十一時半まで法話。その後座談会を設けております。講師を囲んで語り合います。

◆今後の講師一覧

十一月 橘 出氏(第十八組久唱寺)

有志の会 庭講 報告

十月は、お取り越し報恩講を迎えるにあたり、十三日以外におみがき奉仕研修の日にも活動を行いました。参詣にお越しいただいた際には、ぜひ書院から中庭を楽しんでいただければと思います。



フードバンクを継続中

― 十月の別院でのフードドライブに

ご協力いただいた御寺院・御門徒―

第二十組慶誓寺、第二十三組善照寺

その他、匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は十一月二十四日(金)です。

職員退職の報告

このたび別院会計の関崎勝彦氏が九月二十八日付で退職いたしましたので、崇敬区内寺院・御門徒の皆様へ報告申し上げます。現在、新潟教務所宮堂主計が別院会計事務取扱を兼任しております。

その他の講座案内

○別院声明教室

昼の部 (午後三時～五時)

講師 別院列座

夜の部 (午後六時～八時)

講師 橋 宗真氏 (第二十組頭了寺)

開催日 八月二十一日(月) (済)

九月十一日(月) (済)・十月十日(火) (済)

十一月十四日(火)・十二月十一日(月)

(全五回)

○別院書道教室 (東友会)

【毎月第二、第四水曜日、午後六時三十分～八時】

講師 木原 光威氏 (新潟県書道協合理事)

月謝 三,二〇〇円 (テキスト代含む)



随 時 募 集 中

○有志の会座講「毎月十三日」

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか？

毎月十三日十時から、午後は定例法話を聴聞します。

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(絵像)をお迎えして、聞法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修について

【奉仕研修莫加金】

一人あたり半日(午前または午後 五百円、一日千円)

一泊二日は上記の莫加金に順じて半日五百円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修莫加金に含まれる。②シーツ等クリーニング代千円

③食事代(ご要望等)ございましたらご相談承ります。

○団体参拝及び諸殿参観について

七月に新教区となり、高田エリアのご寺院から団体参拝も増えてきました。三条別院では団体参拝を常時お受けしています。列座がご案内いたします。日程等、お気軽にご相談ください。

なお、お取り越し報恩講に団体参拝される

場合は、お斎(御取越御膳)の有無(締切

済)、参拝人数、バスの種類と発着時間(五

日、六日は留置不可)、引率責任者の氏名、住

所、携帯電話番号、法要出仕の有無を必ず事

前にお知らせください。

◆編集後記◆

今年もお取り越し報恩講が近づいてきた。繁忙期というものが三条別院にもあり、お盆過ぎから秋彼岸を経てお取り越し報恩講が終わるまでが、それにあたる。業務過多になると、みんな余裕がなくなってくる。いらいらすることもある。

以前先輩が『仏敵』という本をすすめてくれた。眉間に皺を寄せてそれを読んだりしていたら、教務所で見習いにかけていたK氏が笑いながら「仏様には敵はいないんですよ。なぜならば仏様は敵

をつくらないんですよ」と言った。私は眉間に皺を寄せて「なるほど」と言った。

それで、話のもとに戻るが、お取り越しが近づいてきて余裕がなくなり、携帯電話を変なところに置いたせいで落としてしまつて、画面が真っ黒になった。しばらく使用を試みたが、だんだん発熱してきたので電源を切つた。

大事な電話がかかってくるかもしれないし、職場のグループラインもできなくなつてしまつた。グループカレンダーも見れない。仕事がすすまない。「こんな時に……!」。

それで、いらいらするのだが、いらいらする対象は、携帯電話を落とした張本人、つまり私なので、いらいらがもやもやに変わつてしまふ。

昼間にドコモショップに行けないし、すぐ必要なので、妻に委任状を渡して、機種変更してきてもらった。「いい歳して……!」。

この情けなさを、親鸞聖人はなんと意識するだろうか。「恥ずべし、傷むべし……!」。

先般、「年をとつてくるとこの言葉が実感をもつて感じられる」と教区の先輩が教えてくれた。

そして、私は、なんだか不思議なことに、こういう風に、まったくもつて責任転嫁できない、あきれするような状況を、自分自身がよるこんでいるような気もするのだ。ああ、やっと責任転嫁しなくてよくなったのだ、と。

これはどういう気持ちなのだろうか。これがお取り越し報恩講を迎える気持ちなのかもしれない。よくわからない。

(斎木)